

『風と花』は、富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。1年に6回程度の発行を予定しています。

豊かな感性を育てる!! 大月キリストの教会幼稚園

災害支援+フードバンクへの寄贈



大月キリストの教会幼稚園では、東日本大震災が起きた2011年より、福島の子どもたちと共に保養キャンプをしたり、園児が自分たちで育てた野菜でお店屋さんを開き、その売上げを福島の被災した子どもたちのために寄付しています。今年も、年長組の園児たちがタマネギを育てました。

この取り組みの始まりは、12年前に東日本大震災が起こった時の理事長先生から年長組の園児への投げかけでした。今までも、ダイコン、ジャガイモ、ナスビ、キュウリなどを栽培してきましたが、今回はタマネギに決定。

作業は、年長組の園児たちがまだ年中組だった昨年9月に、プランターへの種まきから始まりました。その後、園の畑への植えかえ、水やり等の作業を経て、6月の収穫となりました。

「タマネギが大きくなって！」「もうタマネギ抜いていいかな？」園児たちは収穫の日が待ち遠しくてたまりません。毎日観察を続け、葉の部分が倒れる収穫のタイミングのサインを見つけると、「これもこれも、とっても大丈夫！」収穫してみると今年は大豊作！合計で516個ものタマネギが収穫できました。例年通り、収穫祭として保護者に販売し、その売上げは福島の被災した子どもたちのために寄付をする準備を始めました。

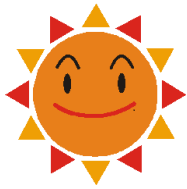
タマネギの栽培と同時に、担任の先生は昨今深刻化している子どもの貧困問題などで食料を必要としている人たちがいることと、支援出来る場所として『フードバンク』という場所があることを子どもたちに話しました。すると、自然と子どもたちの方から、「じゃあ、タマネギをあげればいい」との声が。それを聞いた他の子どもからは、「そうしたら福島の分がなくなっちゃう」と心配した意見も。いろいろと話し合った結果、最終的には「半分に分ければいい」のアイデアが、先生方からの投げかけに対して、しっかりと状況を理解し、自分たちに何が出来るのかのアイデアを出し合いました。早速、認定NPO法人フードバンク山梨/山梨フードバンクセンターに連絡をとり、収穫したタマネギの半分を寄贈することになりました。

後日、子どもたちは南アルプス市にある『山梨フードバンクセンター』を訪問し、袋詰めしたタマネギを一人ひとり直接手渡しました。翌日フードバンクに食品を取りに来た人たちに配付されたそうです。「タマネギを渡したら、喜んでくれた」「笑いかけてくれて嬉しかった」「みんなが嬉しい気持ちになって、自分も嬉しかった」子どもたちの優しさが、さらに他の人たちの優しさや幸せを生み出す。まさにこの社会に生きている我々が忘れ



てはならない、自分の心と他者の心を重ね合わせ、痛みを共有できた瞬間だと思います。このような教育を受けた園児たちは、きっと将来この世の中を今よりも少しでも良い場所にしてくれると信じています。今年の野菜栽培は、タマネギの大収穫が生んだ、心温まるイベントになりました。





夏休みわくわく体験特集

子どもたちは、暑い中でも元気です!!

① 帝京科学の夏祭り at 帝京科学大学

帝京科学大学（沖永荘八学長）と北都留地域教育推進連絡協議会（会長：村上信行上野原市長）は、7月23日(日)に第20回「帝京科学の夏まつり」を帝京科学大学東京西キャンパス（上野原市）にて開催しました。

当日は北都留地区の190名の子どもや保護者が参加しました。3つのプログラムに20コースが開講されました。帝京科学大学のアニマルサイエンス学科やこども学科の学生約70名が、趣向を凝らした体験コーナーを用意し、参加した子どもたちにわかりやすく、丁寧に対応していました。工作プログラムでは、洗濯のりからスライムを作ったり、バナナをアル



カメとのふれあい

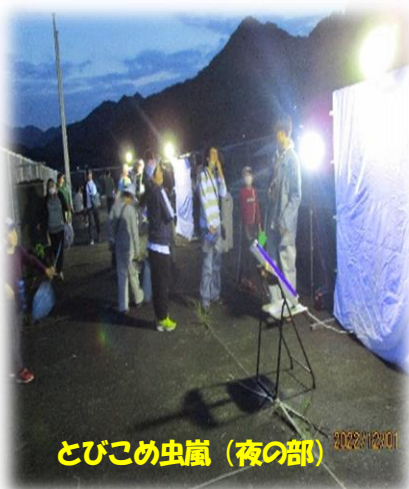
コールで発酵させて昆虫のトラップ（罠）を作ったりしました。実験プログラムではブロッコリーからDNAを抽出しました。また、リクガメ・モルモット・ヘビとふれ合うプログラムもあり、子どもたちは恐る恐る手を伸ばしながら動物たちに触ったり、エサをあげたりしていました。アクアリウムでは様々な魚を観察し、意外と私たちの周りに外国から来た魚がたくさんいることに驚きました。

夜の観察会では旧桜井小学校の屋上で「とびこめ虫嵐!!!」のテーマのもと、照明器具を使い近くにいる虫を集めました。びっくりするぐらいの虫が集まり、大きな歓声が沸いていました。

朝から夜まで、動物とふれあったり、自然観察をしたり、科学の不思議な世界を体験しました。夏休みにしか出来ない貴重な一日となりました。



モルモットへの餌やり



とびこめ虫嵐（夜の部）



スライムづくり



ブロッコリーからDNA抽出

ヘビとのふれあい

② 親子カルチャー教室 at 富士北稜高校

7月22日(土)に、富士北稜高校(塩入由里校長)にて「親子カルチャー教室」が実施されました。「ポケットティッシュポーチをつくろう」「ライトレースカーをつくろう」「鋳物でオリジナル作品をつくろう」の3つのプログラムに、南都留地区(除く:都留市・西桂町・道志村)の小学生とその保護者の合計32名が参加しました。「ミニ先生」として富士北稜高校生19名も参加。先生役として小学生の子どもたちと一緒にモノづくりをおこなってくれました。

ポケットティッシュポーチは型紙を使って作りました。初めてミシンやアイロンを使うという子どもたちが多く、最初はなかなか上手いきませんでした。ミニ先生からのアドバイスで徐々にペースアップ。最後にはカラフルなポケットティッシュポーチがたくさん出来上がりました。

ライトレースカーは、様々な部品をハンダ付けして作りました。反射する光の量によって電流を制限して、進む方向を変えながらラインをなぞって行く仕組みに子どもたちはびっくり。上手にラインをなぞっていかない時は、何人ものミニ先生が様々な可能性を考えて、試行錯誤しながら微調整。再度挑戦し、上手にライン上を走った時には、小学生と高校生が一緒になって喜びの声を上げていました。

鋳物では、表札を作りました。自分の名前を発泡スチロールで形作り、それを砂とともに型枠に埋めます。高温で溶かした金属を型枠の空洞部分に流し込み、冷やして固めます。砂から出してみると、立派な表札が出来ていました。手に取ってみると、そのずっしりとした重量感にみんな満足顔。どこに出しても恥ずかしくない、オリジナルの表札が出来上がりました。

終了後のアンケートには、保護者の方からの「普段の生活では出来ないことが出来て、本当に良い思い出になりました」という感想がたくさんありました。子ども達にとっても、保護者の方々にとっても、素敵な夏休みの一日となりました。



ライトレースカー



ライトレースカーハンダ付け



鋳物のオリジナル表札完成



オリジナル表札
金属の流し込み



オリジナル表札
型枠からの取り出し



ポケットティッシュポーチ完成



ポケットティッシュポーチ



ポケットティッシュポーチ
初めてのミシン体験

③ 親子ふれあい体験教室 at 都留興譲館高校

8月11日（金）に、都留興譲館高校（中島利秀校長）にて「親子ふれあい体験教室」が開催されました。都留市・西桂町・道志村内の小学4年生～6年生までの児童とその保護者の合計32名の参加者が、「燃料電池カーの製作」「デジタル時計の製作」「メタルプレートの製作」「透明樹脂を用いたアクセサリーの製作及び電子顕微鏡観察体験」「英語で科学実験」に取り組みました。「ミニ先生」として都留興譲館高校生17名も参加。先生役として小学生の子どもたちと一緒に体験活動をおこなってくれました。

「燃料電池カーの製作」では、4つのタイヤでデコボコ道でも力強く進む4WDカーを作りました。細かいパーツが多く、子どもたちとミニ先生が協力して作り上げていきました。動くためのエネルギー源はマグネシウム燃料電池で、塩水を垂らして発電し動き始めると歓声が上がっていました。

「デジタル時計の製作」では、ハンダ付けを行いながら作りました。ハンダ付けをやったことがない子が多く、ミニ先生がやさしくサポートしていました。完成したつもりが、電源を流してみてもなかなか時刻表示が出てこないものも。粘り強く取り組み、最後には全員のデジタル時計が時を告げていました。

「メタルプレートの製作」では、パソコンでイラストや文字をデザインし、オリジナルのプレートを作りました。自分の名前や好きな言葉を入れ、世界に一つしかないピカピカのプレートが出来上がりました。子どもたちの嬉しそうなお顔がたくさん見られました。

「アクセサリーの製作及び電子顕微鏡観察体験」では、紫外線を当てると透明に固まる樹脂を使い、オリジナルのアクセサリーを作りました。油性マジックを使いながら色づけも行い、今までにないようなカラフルなアクセサリーが完成しました。また、電子顕微鏡観察体験では、普段体験できない電子顕微鏡の使い方と観察を体験しました。

「英語で科学実験」では、英語指導助手のジェンナ先生の協力も得ながら、理科の先生が静電気を使った科学実験を行いました。実験の手順をジェンナ先生が英語で説明。ときにはジョークも英語で交えながら和やかな雰囲気で行って進んでいきました。小学校での英語教育の成果のためか、子どもたちの英語力にはびっくりしました。

事後アンケートのコメントです。

「ミニ先生の教え方がとてもわかりやすかった。とても楽しかった」

「ミニ先生の一生懸命な気持ちが伝わってきた。とても子どもにとっては良い経験でした」

「メタルプレートをもっとつくりたい！！家族といっしょにつくって、とてもたのしかった」

高校生のミニ先生にとっても、小学生の児童にとっても、とても有意義な時間となったようです。

また、次のような保護者のコメントもありました。

「技術や内容も大切なことですが、子どもにとって、地域にある高校の門が開いていること、高校や高校生たちが身近に感じられて、後々にこの経験が体感として生きてくるのではと思いました。（子どもたちが、）少し先の未来を実感を持って選んでいける良いキッカケになればうれしく思います」このような活動が子どもたちのキャリア教育の一助となることを願っています。



言葉が持つ意味の奥深さを発見！！

チャレンジ！上高アニメーション



8月1日（火）に上野原高校（小笠原宏校長）にて「チャレンジ！上高アニメーション」が開催されました。アニメーションとは、ゲーム形式で参加者同士がコミュニケーションを取りながら進める読書会です。全部で75のプログラムがありますが、今回はその中で、「前かな、後ろかな？」と「彼を弁護します」の2つを実施しました。

当日参加した北都留地区中学生16名と上野原高校生8名の全員が指定図書「卒業旅行」（角田光代著）を事前読み込んでおきました。「前かな、後ろかな？」では、ランダムに並べられた抜粋してある作品の中の一節やセリフを指定図書と同じ順序になるように並べ替えていきました。「彼を弁護します」では、各自が作品の中の登場人物になり

きり、他の参加者からの「どうしてあなたはあのような行動をとったのですか？」等の質問に答え、登場人物の気持ちを代弁していきました。

中学生の感想です。

「それぞれの質問に（登場人物の気持ちになり）答えてみると、いろいろなことが改めて分かることができました」

「登場人物の立場になり、考えることの楽しさを知った」

「急に質問されるととまどう場面もありましたが、登場人物の気持ちを深く知ることができてよかったです」

「自分が不思議に思ったことや聞いてみたかったことを実際に登場人物に聞くことができて新鮮でした」

作品を深く読み込み、表面的な意味だけでなく、その言葉の裏に隠された登場人物の心境を理解する必要がありました。その上で、アニメーションを進めるにしたがって、自分の理解した心境と他の参加者が理解していた心境との違いに気づき、言葉が持つ意味の奥深さに気づかされました。読書への興味がさらに深まった1日となりました。



第29回 大月空襲

戦争と平和展

8月10日(木)～11日(金)にかけて、大月市民会館にて「大月空襲 戦争と平和展」が開催されました。

北都留地区の教員らでつくる「大月市平和を考える会」が主催し、市内外の多くの方が来場しました。

1945年(昭和20年)8月13日、大月市はアメリカ軍による空襲を受けました。それは、ポツダム宣言の受諾と戦争終結が発表されるわずか2日前のことでした。この空襲による死者は即死者及びその後遺症による者を合わせて61名で、未成年者がそのうちの37名を占めています。



市内の小学生50人が参加した遺跡巡りでは、行願寺墓地内にある遺髪塚で大月空襲の被害状況について説明を受けた後、実際に空襲被害のあった県立都留高等女学校(現在の**大月短期大学**)構内を巡りました。また、市民会館にて、大月空襲を体験した加納健司さんの講話も聴きました。都留高等女学校では、昭和19年夏から講堂と裁縫室を「学校工場」として物資投下用の小さな落下傘を製造することになり、当日も女学生たちが作業に従事していたそうです。また、警戒警報や空襲警報が発令されると、空襲による火災などから校舎を守るため、学校近くの女生徒たちは「特設防護団員」(防空要員)として、登校しているときはもちろん、家にいる時でも学校に登校して、警備や監視、消火や救護にあたらなければならないそうです。そのため、当時も夏休み中にも関わらず、多くの生徒たちが学校に登校し、犠牲となってしまったそうです。戦争が始まると、学校生活も一変してしまう恐ろしさを感じました。

市民会館ロビーには、都留高等女学校の犠牲となった生徒の遺影や、爆撃があった場所を記した地図、戦時中に使われたかばんや靴、日章旗なども並んでいました。

大月市郷土資料館の深澤眞館長によると、この大月空襲は、アメリカ軍の当初の目標だった川崎市が雲に閉ざされていたために爆弾を落とすことができず、どこか他の場所を探して雲の上をさまよった末に、たまたま雲の隙間から見えた工場群とダムのように見えた場所を攻撃したものだそうです。「たまたま晴れていたから空襲を受けてしまい、多くの方々の明るい未来が奪われた」と考えると、いたたまれない気持ちになりました。



【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHP からご覧いただけます。

URL : <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/jouhoushibackn.html> 】

地域の皆様のご支援ご協力を得ながら、実りある実践となるよう努めてまいります。各事業についてご意見ご要望、地域連携活動の情報がありましたら、教育支援スタッフまでご連絡ください。

※連絡先 富士・東部教育事務所 教育支援スタッフ 0554-45-7841